

船舶事故調査報告書

平成30年3月28日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗揚
発生日時	平成29年9月26日 04時00分ごろ
発生場所	長崎県対馬市志多賀漁港南側の浅瀬 志多賀港沖防波堤灯台から真方位270° 200m付近 （概位 北緯34° 28.5′ 東経129° 23.9′）
事故の概要	漁船共栄丸は、北西進中、浅瀬に乗り揚げた。 共栄丸は、船底外板の破口等を生じた。
事故調査の経過	平成29年9月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 共栄丸、7.3トン NS2-17071（漁船登録番号）、個人所有（船長） 13.95m（Lr）×2.76m×0.96m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数80、昭和55年7月29日
乗組員等に関する情報	船長 男性 77歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成9年7月17日 免許証交付日 平成29年3月15日 （平成34年7月16日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底外板に破口、主機、航海計器、漁具等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風速 約2～3m/s、視界 良好 海象：うねり 波向北、波高約2.0m、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成29年9月26日03時00分ごろ水揚げ港である志多賀漁港に向けて同漁港南東方沖7海里（M）付近のいか釣り漁場を発進した。 船長は、操舵室後部にある横方向に渡した踏み板の上に立ち、レーダー及びGPSプロッターを作動させ、いか釣り漁場から戻り始めた他の漁船を避けながら、手動操舵で操船に当たった。 船長は、前方を横切る他の漁船がいなくなったので、操舵室左舷側にある椅子に腰を掛け、約8ノットの対地速力として、GPSプロッターを確認して針路を志多賀漁港の沖防波堤灯台に向け、自動操舵で

	<p>航行を続けた。</p> <p>船長は、少し疲れを感じていたものの、眠気は感じていなかったが、椅子に腰を掛けて見張りを続けていたところ、いつの間にか居眠りに陥り、04時00分ごろ衝撃で気が付いた。</p> <p>船長は、周囲を確認して志多賀漁港出入口付近で陸岸近くの浅瀬に乗り揚げたことを認め、家族に携帯電話を入れていたところ、定置網の網起こしのために出港してきた僚船に気づき、無線で救助を依頼した。</p> <p>本船は、船長が乗った状態で、僚船によって浅瀬から引き降ろされ、港内の岸壁まで引き込まれたが、船底から浸水し始め、岸壁に係留した状態で沈没した。</p> <p>漁業協同組合の担当者は、海上保安庁に本事故の発生を通報した。 (付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.5mであった。</p> <p>船長は、9月23日夕方から26日早朝まで、それぞれ午後3時30分ごろ出港し、翌午前04時00分ごろ入港する操業を3日間連続で繰り返していた。</p> <p>船長は、9月24日及び25日早朝の水揚げ後の睡眠はいずれも約2～3時間ほどで、昼からは出港前の漁具の修理等を行っており、海上での操業開始前の休息もとっていないかった。</p> <p>船長は、ふだんは操船中に椅子に腰を掛けることはなかったが、少し疲れを感じていたため、椅子に腰を掛けてしまったと本事故後に思った。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	あり なし なし <p>本船は、志多賀漁港南東方沖を北西進中、船長が居眠りに陥ったことから、同漁港南側の浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、9月24日及び25日早朝の水揚げ後の睡眠が約2～3時間であったこと、前方に他船を認めなかったこと、及び椅子に腰を掛けて見張りを続けていたことから、覚醒水準が低下し、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、志多賀漁港南東方沖を北西進中、船長が居眠りに陥ったため、同漁港南側の浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の操業を連続するときは、陸上での休憩を十分にとること。 ・操業中に疲労を感じたときは、眠気がなくても、体調を考慮して

	<p>安全な場所で適宜休憩をとること。</p> <ul style="list-style-type: none">・眠気を生じた場合は、身体を動かしたり、操舵室の窓を開けて外気を入れたりするなど、適切な方法で眠気を払拭すること。
--	---

付図1 事故発生経過概略図

